【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】平成21年8月27日(2009.8.27)

【公開番号】特開2008-81649(P2008-81649A)
【公開日】平成20年4月10日(2008.4.10)
【年通号数】公開・登録公報2008-014
【出願番号】特願2006-264766(P2006-264766)
【国際特許分類】
Ｃ０８Ｆ　2/44　(2006.01)
Ｃ０８Ｊ　7/04　(2006.01)
Ｂ０５Ｄ　7/24　(2006.01)
Ｂ０５Ｄ　7/04　(2006.01)
Ｂ３２Ｂ　7/02　(2006.01)
Ｂ３２Ｂ　23/08　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０８Ｆ　2/44　Ｃ
Ｃ０８Ｊ　7/04　ＣＥＰＺ
Ｂ０５Ｄ　7/24　３０１Ｔ
Ｂ０５Ｄ　7/04
Ｂ３２Ｂ　7/02　１０３
Ｂ３２Ｂ　23/08
Ｃ０８Ｆ　2/44　Ａ

【手続補正書】
【提出日】平成21年7月10日(2009.7.10)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
電離放射線硬化型透光性樹脂中に、１種類の透光性微粒子を１～５０重量％含有し、透光性微粒子と電離放射線硬化型透光性樹脂との屈折率の差が０．０２以下であり透光性微粒子が分散してなる樹脂組成物（Ａ）群と、電離放射線硬化型透光性樹脂中に、前述の透光性微粒子と異なる屈折率を有する１種類の透光性微粒子を１～５０重量％含有し、電離放射線硬化型透光性樹脂との屈折率の差が０．０３～０．１０であり透光性微粒子が分散してなる樹脂組成物（Ｂ）群において、樹脂組成物（Ａ）群および／または樹脂組成物（Ｂ）群から選ばれる樹脂組成物２種類以上、および電離放射線硬化型透光性樹脂からなる透光性微粒子を含まない樹脂組成物（Ｃ）を配合することを特徴とする樹脂混合組成物。
【請求項２】
樹脂組成物（Ｂ）それぞれに含有する透光性微粒子の屈折率の差が０．１以上であることを特徴とする請求項１記載の樹脂混合組成物。
【請求項３】
電離放射線硬化型透光性樹脂が屈折率１．４９～１．５３であることを特徴とする、請求項１または２記載の樹脂混合組成物。
【請求項４】
樹脂組成物（Ａ）、および（Ｂ）を構成するいずれかの透光性微粒子が有機微粒子であって、かつ（Ｂ）を構成する他方いずれかの樹脂組成物が含有する透光性微粒子が無機微

粒子であることを特徴とする、請求項１～３いずれかに記載の樹脂混合組成物。
【請求項５】
有機微粒子の平均粒径が０．１～１０μｍであり、無機微粒子が二酸化珪素粒子であって、その二酸化珪素粒子の平均二次粒径が０．１～５μｍであることを特徴とする、請求項１～４いずれか記載の樹脂混合組成物。
【請求項６】
請求項１～５記載の樹脂混合組成物をベースフィルムまたは透明基板上に塗布層を形成してなる積層体。
【請求項７】
塗布層が、１～２０μｍである請求項６記載の積層体。
【請求項８】
ベースフィルムまたは透明基板が、トリアセチルセルロースである請求項６または７記載の積層体。
【請求項９】
請求項６～８いずれか記載の積層体に、電離放射線照射をすることを特徴とする積層体の製造方法。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００５】
即ち本発明は、電離放射線硬化型透光性樹脂中に、１種類の透光性微粒子を１～５０重量％含有し、透光性微粒子と電離放射線硬化型透光性樹脂との屈折率の差が０．０２以下であり透光性微粒子が分散してなる樹脂組成物（Ａ）群と、電離放射線硬化型透光性樹脂中に、前述の透光性微粒子と異なる屈折率を有する１種類の透光性微粒子を１～５０重量％含有し、電離放射線硬化型透光性樹脂との屈折率の差が０．０３～０．１０であり透光性微粒子が分散してなる樹脂組成物（Ｂ）群において、樹脂組成物（Ａ）群および／または樹脂組成物（Ｂ）群から選ばれる樹脂組成物２種類以上、および電離放射線硬化型透光性樹脂からなる透光性微粒子を含まない樹脂組成物（Ｃ）を配合することを特徴とする樹脂混合組成物に関する。
また本発明は、樹脂組成物（Ｂ）それぞれに含有する透光性微粒子の屈折率の差が０．１以上であることを特徴とする請求項１記載の樹脂混合組成物に関する。
また本発明は、電離放射線硬化型透光性樹脂が屈折率１．４９～１．５３であることを特徴とする、請求項１または２記載の樹脂混合組成物に関する。
また本発明は、樹脂組成物（Ａ）、および（Ｂ）を構成するいずれかの透光性微粒子が有機微粒子であって、かつ（Ｂ）を構成する他方いずれかの樹脂組成物が含有する透光性微粒子が無機微粒子であることを特徴とする、請求項１～３いずれかに記載の樹脂混合組成物に関する。
また本発明は、有機微粒子の平均粒径が０．１～１０μｍであり、無機微粒子が二酸化珪素粒子であって、その二酸化珪素粒子の平均二次粒径が０．１～５μｍであることを特徴とする、請求項１～４いずれか記載の樹脂混合組成物に関する。
また本発明は、請求項１～５記載の樹脂混合組成物をベースフィルムまたは透明基板上に塗布層を形成してなる積層体に関する。
また本発明は、塗布層が、１～２０μｍである請求項６記載の積層体に関する。
また本発明は、ベースフィルムまたは透明基板が、トリアセチルセルロースである請求項６または７記載の積層体に関する。
また本発明は、積層体に、電離放射線照射をすることを特徴とする積層体の製造方法に関する。
【手続補正３】

【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４２】
［実施例１～２］
［配合例１～４］に示した方法により電離放射線硬化性樹脂混合組成物を作成した。いずれの電離放射線硬化性樹脂組成物も経時７日後においてもビーズの沈殿はなく、塗液安定性に優れていた。これらの電離放射線硬化性樹脂組成物を表２に示した配合量で混合し、不揮発分５０％の電離放射線硬化性樹脂混合組成物（１）～（２）を調製した。厚さ８０μｍのトリアセチルセルロースフィルム（富士写真フィルム社製）に電離放射線硬化性樹脂混合組成物（１）～（２）をバーコーターで塗布し、７０℃～１分で乾燥後させた。その後、窒素パージによって０．３重量％以下酸素濃度雰囲気にて、高圧水銀ランプを用いて紫外線を照射量４００ｍＪ／ｃｍ^{2}で照射して塗布層を硬化させ、厚さ５．５μｍの防眩層を形成した。得られた防眩フィルムは表３に示した結果のように様々な曇価（ヘイズ）の光制御特性の防眩フィルムを得ることが出来た。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４６】
実施例１～２と同様に電離放射線硬化性樹脂混合組成物（３）～（４）を塗工硬化させ、防眩層を形成した。得られた防眩フィルムの評価結果を表２に示した。光制御特性は実施例１～２と同様な性能は得られるものの、塗液は経時１日後でビーズが沈殿した。